

色部はイソヒヨドリより狭く肩羽までで、淡く少し灰色味を帯びていた。飛翔時には三列風切羽の一部に白色を認めた。

観察時刻は9:30 A. M.から3:00 P. M.までであり、快晴の日であった。この間に発見場所より50m内外の枯木や道横の岩上を移動していた。採食行動はフライング・キャッチが多く、ハエやアブ、ハチなどを捕食し、径2mmほどのペリットを吐くのを2度観察した。人間に対する警戒性は弱かったが、この地で繁殖しているキセキレイに対しては攻撃的で、5m内外に近づくと必ず追払った。観察できたのは1日だけで翌日は見られなかった。

考察：イソヒヨドリ類で、背中に白色部があり尾羽がオレンジ色の鳥は、コンジロイソヒヨコの成鳥以外に見当たらないので識別の点では間違いないと考えられる。この個体がどのような経緯で飛来したかは不明である。カゴ抜けの可能性もあるが、足輪や羽毛のスレなどもみられず、人里離れた場所で発見された点と渡りの時期である点から、筆者は迷行した個体と考えた。鄭作新(1976)によれば中国東北部まで分布している。また、ヨーロッパの個体はアフリカ中部で越冬するというので(Campbell 1974)、中国東北部の個体が日本に迷行する可能性も十分考えられる。

終りに、外国文献を訳して頂いた鴨川富美子氏に厚くお礼申し上げる。

#### 文 献

Campbell, B. 1974. The dictionary of birds in color. The Viking Press, New York.

鄭作新. 1976. 中国鳥類分布名録. 科学出版社, 北京.

1982年9月5日受理

1. 〒428 静岡県金谷町金谷3451-21. 静岡支部

#### First Record of Rock Thrush (*Monticola saxatilis*) in Japan

Takashi Kawada

On May 29, 1982, a Rock Thrush was found and photographed in Shizuoka Prefecture. It is the first record of this species in Japan.

3451-21 Kanaya-cho, Haibara-gun, Shizuoka-ken 428

#### 長野県におけるヤイロチョウの繁殖初記録

林 正 敏<sup>1</sup>

1982年6月27日、長野県下伊那郡南信濃村でヤイロチョウ *Pitta brachyura* の営巣が確認された。この繁殖記録は本州最初であり新たな北限として意義深いものと考えられるため、発見者に代って報告する。

発見者は長野県飯田市の宮沢勝美氏で、氏は同日南信濃村の沢奥に写真撮影に行った際、約20年生

のアカツ林内の狭い道の約10m先に降りたヤイロチョウを発見した。ヤイロチョウはしばらく地上であたりを見渡したあと林の中に飛び去った。この出現は時期的に繁殖期間中であるため営巣の可能性があると考え、飛び去った方向へ約100m追跡した。その場所は、トチ、イヌザンショウ、カヤなどから成る針広混交の天然林であった。地形は、小さな沢が複雑に入り組み、最大傾斜が約35度の急峻な所で、V字型の沢底には流水が滝状に流れていた。

宮沢氏は沢に下り約2時間待機した。そこへ2羽のヤイロチョウが松葉をくわえて飛来し、樹枝上で警戒していたが、まもなく近くの山腹に降りた。そこは沢から約20mの地点で、周囲がやや開けた地上で楕円球型の巣を確認した。巣の長径は35cm、短径は28cmで、長径部が山腹に添うかたちで造られていた。出入口の穴は直径6cmで谷側にあった。巣材はコケを主材に、外周に太さ8mmぐらいまでの小枝、スギの葉、トチの葉柄などがついていた。内部（巣立ち後の調べ）の産座には松葉を敷いていた。産卵はまだであった。

27日は巣を確認しただけで現場を去ったが、このとき巣から約70m離れた沢の水溜りで水浴するヤイロチョウを目撃した。距離は約8mで、一旦は地上1.5mの小枝にとまり羽の水滴をふるい落していたが、再び地上に降り4~5mをピョンピョンと移動し、先の地点よりやや上流でまた水浴をはじめた。次に訪れた7月3日には、巣穴から2個までの卵を確認することができた。ブラインドを張って観察すると、やって来た親鳥は巣から約9m離れた枝に約2分間とまり、首を伸び縮みさせたあと巣に飛来し、ここで一旦とまって様子を見たあと巣の中へ入っていった。午前9時頃から午後2時頃までに5回の出入りがあった。出入りに際しては、遠くで「ポポッピー、ポポッピー」という鳴声があると、巣内でこれに應えるような鳴声をした後に飛び立ち、1~2分後に再びもどって巣に入った。これが抱卵の交代であるならば1時間に1回の割合で交代したことになる。

7月18日に調べたときには、巣内には卵もヒナもなかった。巣穴は横長に変形し、入口にはヒナのものらしいフンがあった。さらに、近くに飛来した親鳥は、くちばしにヒナに与えるためと思われるミミズをくわえ、低い枝に移動しては「ピー」と大きな警戒声と思われる鳴声を発していた。

後日8月15日に野沢進之輔、宮沢両氏と筆者が現地調べたところ、巣内の産座にはヒナが生長する際にむけた羽の筒の殻（羽鞘）がまっ白に散在していたため、ヒナが無事巣立ったことはほぼ間違いないと考えられた。

1982年9月15日受理

1. 〒394 長野県岡谷市川岸。諏訪支部。



ヤイロチョウの成鳥

### New Breeding Record of Fairly Pitta (*Pitta brachyura*) in Nagano Prefecture

Masatoshi Hayashi

In June-July 1982, a nest of Fairly Pitta was found in Nagano Prefecture. This is the first breeding record of this species in Nagano Prefecture.

Kawagishi, Okaya-ahi 394